昭和26年3月12日第3種郵便物認可　平成23年12月1日発行（毎月1日発行）第1巻 第2号
ISSN 0913-9850

MONTHLY かもつ

2011 12
VOL.1

公益社団法人 鉄道貨物協会　　日本貨物鉄道株式会社

公益社団法人 鉄道貨物協会

我が国の貨物輸送の分野について、物資の安定・供給及び地球環境負荷（輸送量当りのCO_2排出量）の観点から、輸送方法の研究及び研究成果の普及啓発活動を行い、以って国民の生活に不可欠な物資の安定供給及び地球環境の保全に資することを目的とする。

1 公益社団法人 鉄道貨物協会 創立社員総会開催
ご挨拶　公益社団法人 鉄道貨物協会 代表理事 二森茂輔
祝　辞　日本貨物鉄道株式会社 代表取締役社長 小林正明
新代表理事ご挨拶　公益社団法人 鉄道貨物協会 米本亮一

4 公益社団法人 鉄道貨物協会 第1回 理事会を開催

5 支部だより
エコレールマークPRイベントを開催 北海道支部

6 平成23年度 年末年始期のコンテナ列車運転計画のご案内

7 モーダルシフト
東洋紡績株式会社

11 トピックス

12 FREIGHT EYE

14 JR貨物コンテナガイド（私有コンテナ編）

16 SPOTLIGHT
ミツエイ株式会社
福島臨海鉄道株式会社

19 協会ニュース／リフレッシュクイズ

20 平成23年度 本部委員会委員長副委員長会議を開催
本部委員会の審議内容

22 第18回 JR貨物フェスティバル 広島車両所公開でエコレールマークをPR

23 支部だより
隅田川駅貨物フェスティバルに東京支部参加 東京支部
第10回 鉄道コンテナ基礎知識講習会を開催 名古屋支部

24 お国自慢
盛岡三大麺

表3 会員企業紹介　松原産業株式会社

JR貨物

価値を運ぶネットワーク

私達は鉄道貨物輸送を基軸として
その未来における新しい役割を認識するとともに
より総合的な物・価値・情報の交流を創造し
お客様の信頼に応え
豊かな社会の実現に貢献します

MONTHLY かもつ・12月号

第1巻・第2号

2011年（平成23年）12月1日発行（毎月1日発行）

発行／公益社団法人 鉄道貨物協会
〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-8-4 吹田屋ビル4階
☎03-5256-0577　FAX03-5256-9220
鉄道貨物協会インターネットホームページアドレス http://www.rfa.or.jp

編集／ 公益社団法人 鉄道貨物協会・日本貨物鉄道株式会社・
（株）ジェイアール貨物・リサーチセンター

印刷／（株）恒陽社印刷所活版事業部

ご挨拶

平成23年度　公益社団法人 鉄道貨物協会

創立社員総会開催

公益社団法人 鉄道貨物協会
代表理事 **二森 茂輔**

二森でございます。

公益社団法人「鉄道貨物協会」の創立社員総会の開催に当たり、一言ご挨拶申し上げます。

本総会には、鉄道局次長 田村様、日本貨物鉄道株式会社代表取締役社長 小林様を始め、ご来賓の皆様並びに会員の皆様方には、ご多忙の中、多数ご出席を賜りまして、心よりお礼申し上げます。

本年は我が国にとって、国難とも言うべき3月11日に発生した東日本大震災及び原子力発電所問題等、未曾有の事態に直面いたしました。その復旧・復興については、先の第3次補正予算の成立によりようやく緒に就いた所、今後国の総力を結集してスピード感を持った確実な再生への道筋が確立されること、切に望まれる所であります。

さて、冒頭にも申し上げましたが、本日は当協会にとって、先に5月の総会で「公益法人」への移行の決議を頂き、その後所与の手続を経て、11月1日付を以って「公益社団法人鉄道貨物協会」へ移行し、ここに新たな出発をする日となりました。

当協会の新たな「定款」では、「公益事業目的」に「国民生活に不可決な物資をより安定的に供給し、かつ環境負荷を低減させるために貨物の輸送方法について調査、研究を行い、その成果の普及啓発活動を通じて、国民生活に不可決な物資の安定供給と地球環境の保全を実現する事業」として、これを掲げております。

しかし、このことは、これまでの当協会の活動の基本軸が何ら変わるものではございません。これまでと同様に貨物輸送の分野で大量・安定性及び環境特性を担う鉄道貨物輸送の幅広い応援団として、その認知度の向上と利用促進に資する諸活動を進めて参ります。今回、当協会の活動が公益の増進に資する事業であると認められたことを契機として、今後さらに広く国民全体に当協会の事業に対する理解の増進を図り、社会貢献の実現に向けた取組みを進めて参りたいと考えております。

また、同時に会員の皆様方にも「公益法人へ移行して良かったね」と受け止められますよう、その期待にしっかりと応えたいと関係者一同、本部、支部一体となって今後の活動の輪を拡げ、かつ深めて参りたいと決意を新たにしている所であります。

会員の皆様方に置かれましては、引き続き当協会活動へのご理解ご支援を賜りますよう重ねてお願い申し上げます。

終わりに、会員の皆様方の益々のご繁栄とご健勝を心よりお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせて頂きます。本日は有難うございました。

平成23年11月29日

祝辞

日本貨物鉄道株式会社
代表取締役社長 **小林 正明**

ご紹介いただきました、JR貨物の小林です。協会並びに会員各社の皆様には、平素より、格別のご支援を賜っており、厚く御礼申し上げます。

1 祝意

(1)認定までの道のり

まずは、この程、鉄道貨物協会が「公益社団法人」として新たなる第一歩を踏み出されましたこと、心より、お祝い申し上げます。

先程の二森理事長のご挨拶では触れておられませんが……、最終的には、委員会満場一致で「認定」された訳ですが、審査の過程では大変に厳しい指摘を受けたとのことで……、「事業の性格からして“公益事業”に該当するのか?」、「JR貨物だけを利するのではないのか?」といった、50件を超える論点が提起されたと伺っております。

(2)鉄道貨物輸送発展の礎

設立以来61年間、当協会は、“経済状況”、“産業構造”の目まぐるしい変化や“技術革新”に対応し、“国民生活に不可欠な物資の安定供給”という観点から多大なる貢献をされてきました。

「鉄道利用促進の提言」や「物流効率化」は勿論のこと、「包装」・「荷役」・「保管」等の物流機能や技術について、幅広い角度から検討を行う「専門委員会」で地道に取り組んできたその成果が結実し、今日の鉄道貨物発展の「礎」となったことは間違いありません。

また、6年前から開始した「エコレールマーク事業」も大変、有り難い「普及啓蒙活動」であり、地味で認知度が低いJR貨物にとりまして、貴重な事業であります。「認定件数」はすでに200件を超え……、最近、スーパー等でこのマークのついた商品をよく目にしますが……、大変、嬉しい気分がします。

このように、鉄道貨物輸送の「応援団」的存在である当協会が「公益認定」されたということは、「鉄道貨物輸送の果たす役割そのもの」が、「公益性の高い事業」として認識されたことだと理解しています。

2 震災復興

(1)復興状況

さて、本当に、あっという間に今年も終わろうとしていますが、本年は、とにかく、3.11の「東日本大震災」……、これに尽きると思います。改めまして、亡くなられた方々、被災された皆様に、心よりご冥福をお祈りし、お見舞い申し上げる次第です。

復興状況ですが……、JR貨物本体、臨海鉄道合わせて120億円という大被害を受けました。駅や車両所、各臨海鉄道は概ね復旧しつつありますが、被害の一番大きかった「石巻港駅」は、依然、手付かずのままで……、町全体に相当の苛立ちが感じられます。

現在、緊急避難で、仙台との間をトラック代行で凌いでいますが……、このままでは、毎日、250台もの大型トラックが運行することとなり、交通の渋滞・安全・騒音・振動等を大変、懸念しています。

地元自治体は無論のこと、政府・党を挙げた支援体制を頂いておりますが……、とにかく、一日も早い復旧・復興に向け、全力で取り組んでいる所です。

(2)第3次補正

一方、「災害復興支援」についてですが……、「鉄道軌道整備法」に基づく、「国と自治体」合せて「2分の1」という補助率のルールがありますが……、「要件の緩和」等、懸命にお願いして参りましたが、国交省の暖かいご支援を頂き、復興財源が誠に厳しい中、「第3次補正予算」に盛り込んで頂き、先週火曜にようやく成立し、ほっとしている所です。

3 ガレキ輸送

それから、「ガレキ輸送」ですが……、テレビ等で報道されています通り、東京都と岩手県の間で「協定」が結ばれ、11月から、鉄道によるガレキ輸送が始まりました。「セシウムが入っているのでは?」といった4000本近い「抗議」が東京都に殺到したそうですが……、受け入れを決断した「石原都知事」ならではの、まさに「大英断」だったと思います。

また、宮城県女川町のガレキ輸送も、来月から同様の形で始まることが、先週、発表されました。

とにかく、ガレキが撤去されない限り、復旧・復興は始まらない訳ですから、当社にとりましては、こんな時こそ「鉄道の出番」……、大いなる「社会貢献」として、全力で取り組んで参りたいと考えています。

4 経営状況

次に、当社の経営状況についてです。上期は、大震災に加えて、“経済不況”や“ゲリラ豪雨”、“大型台風”の影響をもろに受け、まさに「泣きっ面に蜂」でした。

相変わらず「人身障害」も多く……、最近では動物類との衝突事故が急増しており、安定輸送が大きく揺らぎました。皆様には、大変、ご迷惑をお掛けしましたことを、深く、お詫び申し上げたいと思います。

列車運休は上期だけで4000本……、とくに、9月はひと月で1000本を超えてしまいました。こんなことは、この10数年なかったことで……、何か、自然現象がおかしくなっている気がします。

そんなことで、上期は17億円という大赤字となってしまい、経営状況は大ピンチとなっています。

5 税制改正

次に、「税制改正」の動きですが……、年末には「社会保障と税の一体改革」の大枠を決めるということで、今年は例年より1ヶ月早く作業が進んでいます。

当社は8項目を要望していますが……、金額的にも大きいのは「承継特例」(13億円)と「軽油引取税」(16億円)です……。この一角が崩れると、当社の経営の屋台骨は大きく揺らいでしまいます。

とくに後者も、ディーゼル機関車やフォークリフトで大量の「軽油」を使いますので、その動向が大変、気になる所です。

現在、JR三島会社と総動員で、関係方面へ強力に働きかけを行っている所ですが……、中央、地方ともに大変な財政難で、情勢はきわめて厳しく、全く予断を許しません。

6 鉄道のシェア拡大に向け

ところで、今回の震災ほど、「物流・ロジスティクス」が「社会インフラ」としていかに重要であるかということが、世の中に広く認識されたことはないと思います。

勿論、トラックや内航も大活躍だった訳ですが……、当社も、1000キロという長距離の「石油列車」を、日本海縦貫を通して1ヶ月間運行し、「石油不足に陥った被災地のライフラインを救った」ということで、「鉄道魂」を如何なく発揮し、「存在意義」を一気に高めることができました。

ところで、我が国の鉄道の分担率は、欧米と比べてかなり低い状況にあります。似たような島国のイギリスは9%で、日本は僅か4%……、威力を発揮しているとは到底、言えません。

「環境問題」に加え、長距離トラックドライバーの減少もますます深刻化しております……。中長距離での鉄道のシェア拡大に、全力で頑張って参る所存です。

7 結び

最後になりますが……、下期に入って早や2ヶ月が経過しましたが、10月、11月は対前年96%と少しずつ手応えを感じるようにはなってきました。新聞等でも、「下半期は緩やかな回復基調」という見方が一般的です……。

しかし一方、「欧州経済危機の深刻化」や歴史的とも言われる「異常な円高」といったリスク要因も多くあり、「景気の先行き」を懸念する向きが強くなっています。

すでに、秋冬期輸送も佳境に入っています……。間もなく、年末の最繁忙期を迎えますが……、「安定輸送の確立」、「品質の向上」等に万全を期して参る所存ですので、増送方、宜しくお願い申し上げる次第です。

結びと致しまして、会員各社のますますのご発展を心より祈念し、祝辞とさせていただきます。本日は誠におめでとうございました。

新代表理事就任ご挨拶

公益社団法人 鉄道貨物協会
代表理事 **米本 亮一**

この度代表理事に就任いたしました米本でございます。任務は大変な重責ではございますが、関係各方面の皆様方のご指導、ご支援を得て頑張って参りたいと存じます。どうかよろしくお願い致します。

さて、当協会でございますが、設立されて61年になります。ご利用頂いているお客様、荷主様、それから貨物鉄道事業者とフォワーダーの皆様方の3者によって構成されており、その時点、時点でニーズの高い課題について3者協同で取り組んで参りました。近時は個人会員の皆様方にも大変お世話になっております。

この長きに亘りまして、会員の皆様方、関係の皆様方のご理解とご支援を頂いたことに対して、厚く御礼申し上げます。

貨物鉄道の応援団であることを基本に、国民生活に不可欠な物資をより安定的に輸送する為には具体的にどうすれば良いのか、ご利用頂いているお客様に少しでも多くご満足を頂けるようにする為には何をどうすれば良いのか、そして近時は環境負荷低減という社会の期待にどう応えていけば良いのか、こうした重要なテーマについて取り組みを深めて参りました。

1、2具体例を申し上げますと、平成17年からは一般消費者に対して「物流の見える化」を図る為、エコレールマーク制度を設け、その普及に努めて参りました。

又、ここ1～2年、レールウェイシフト、モーダルシフトに対して、国のみならず地方自治体レベルでも、下関市をはじめとして幅広い助成措置を講じて頂けるという動きがスタートしております。

当協会としても、昨年末に東京都に対して理事長名で同様の要望書を提出致しました。目下、東京都環境局において真剣にご検討を頂いているという状況にございます。

こうした私達の協会の諸々の活動が評価され、これは非常に公益性が高いと認定されるところとなり、この度、当協会は内閣府から内閣総理大臣名において公益法人の正確には公益社団法人の認定を受けるに至った次第です。

以上のような経緯を経て当協会はこの度、公益法人として生まれ変わりスタートすることとなりました。課題に取り組む基本的な考え方は従来とそう変わるものではありません。

- **貨物鉄道という国民的財産がより活かされるよう、努力していくこと**
- **そして諸々の活動について、広く一般に門戸を広げていくということ**
- **産業構造、物流活動がますますグローバル化しており、これに対応していくということ**

こうした基本意識を持ちつつ、山積する課題に取り組んで参ります。どうかこれからも引き続き、ご指導、ご支援の程、よろしくお願い致します。

第1回 理事会を開催

公益社団法人 鉄道貨物協会では11月21日(月)如水会館において公益社団法人移行後第1回目の理事会を開催しました。

冒頭、二森理事長からの挨拶に続き小林理事【JR貨物社長】から、鉄道貨物輸送の現況についてのお話を頂きました。引続き議事に入り西山理事、渡部理事から社団法人 鉄道貨物協会の平成23年度事業報告と決算報告及び平成23年度の公益社団法人 鉄道貨物協会の事業計画(案)及び予算(案)等について説明を行いました。

審議の結果、全ての議案を満場一致で御承認頂き終了いたしました。

◆ 日 時／平成23年11月21日(月)

◆ 場 所／如水会館

◆ 議 題

第1号議案　平成23年度(平成23年4月1日から平成23年10月31日まで)
社団法人 鉄道貨物協会の事業報告及び決算について

第2号議案　平成23年度(平成23年11月1日から平成24年3月31日まで)
公益社団法人 鉄道貨物協会の事業計画(案)及び予算(案)について

第3号議案　会員の資格について

第4号議案　役員等の選任について

認知度向上にむけて

エコレールマークPRイベントを開催

エコレールマークの認知度向上に出展されたブース

北海道支部

日時：平成23年11月12日(土)
場所：コープさっぽろソシア店

11月12日(土)「環境にやさしい鉄道貨物輸送」をPRすると共にエコレールマークの認知度向上に向け、コープさっぽろソシア店においてイベントを行いました。

エコレールマークを一般消費者に広く知ってもらうため、お店で扱っている認定商品とパネルの展示、売場の商品棚にアイキャッチを貼り付け、チラシとグッズを配布しました。

エコ輸送の話に興味を持って聞いてくださる消費者の方もおり、登場したエコレールマークちゃんの着ぐるみは子供たちが集まって来るなど大変人気がありました。

よく目にする商品が鉄道で運ばれていることを知っていただき、商品を購入することによっても環境負荷低減に貢献しているということを少しでも認識してもらえたイベントになったと思います。

お店で扱っているエコ輸送の認定商品に興味津々

エコレールマークちゃんとスキンシップ…人気者でした

平成23年度

年末年始期のコンテナ列車運転計画のご案内

平成23年度年末年始期のコンテナ列車運転計画は、東日本大震災の影響により常磐線が長期不通となっているものの、震災からの着実な復興過程のさなかにあることを踏まえ、お客様のご要望に沿うかたちで前年並みの運転本数を予定しております。

年末年始期間中の先送り需要が見込まれる12月27日(火)集荷分まではほぼ通常通りの運転で、12月28日(水)集荷分では各地帯間でのご利用が可能な計画としております。12月29日(木)集荷分につきましては、幹線列車を「15地帯間33本」運転いたします。年明けは、初荷などにご利用いただけるよう1月4日(水)集荷分で輸送可能な幹線列車を「15地帯間45本」運転し、1月5日(木)からはほぼ通常通りの運転となります。運転計画の詳細につきましては、弊社営業担当者よりご案内申し上げます。

年末年始期間につきましても、ぜひ鉄道コンテナ輸送をご利用いただきますようよろしくお願い申し上げます。

日本貨物鉄道株式会社

平成23年12月29日(木)集荷にて輸送可能な幹線列車

平成23年11月21日現在

地帯間	列車番号	発駅 締切時刻 (発時刻)	着駅 (着時刻) 引渡時刻	記事
関東↓北海道	3055	隅田川 11:50 (12:27)	札幌(タ) (6:05) 6:25	
	3057	隅田川 16:05 (17:02)	札幌(タ) (10:01) 10:25	
	3051	隅田川 0:00 (0:44)	札幌(タ) (20:29) 20:50	12/30発
北海道↓関東	3054	札幌(タ) 21:45 (22:29)	隅田川 (15:24) 15:40	
	3050	札幌(タ) 23:55 (0:20)	隅田川 (18:25) 18:50	12/30発
関東↓東北	79 ~9091	隅田川 18:20 (21:04)	仙台(タ) (4:48) 5:25	
東北↓関東	9090	仙台(タ) 20:40 (23:03)	隅田川 (5:36) 5:40	
関東↓新潟	2085 ~3085	隅田川 12:45 (13:22)	焼島 (9:02) 9:05	
新潟↓関東	3084 ~2084	焼島 14:50 (14:54)	隅田川 (22:53) 5:02	
関東↓金沢	2073 ~72	隅田川 14:20 (15:52)	金沢(タ) (4:32) 4:40	
関東↓関西	53	東京(タ) 22:00 (23:00)	梅田 (5:49) 6:05	
	55	千葉貨物 18:22 (19:18)	梅田 (5:58) 6:25	
	4068 ~1069	宇都宮(タ) 19:15 (19:58)	大阪(タ) (6:35) 7:30	
関西↓関東	52	梅田 21:54 (22:13)	東京(タ) (5:12) 5:56	
	5076	梅田 20:40 (21:54)	越谷(タ) (6:45) 7:07	
岡山↓関東	5084	西岡山 10:58 (11:28)	東京(タ) (23:20) 2:01	12/30発

地帯間	列車番号	発駅 締切時刻 (発時刻)	着駅 (着時刻) 引渡時刻	記事
関東↓広島	5063	東京(タ) 19:50 (21:01)	広島(タ) (9:58) 10:33	
広島↓関東	5062	広島(タ) 21:50 (22:33)	東京(タ) (10:57) 11:13	
関東↓九州	1051	東京(タ) 23:00 (23:56)	福岡(タ) (18:02) 18:14	12/30発も運転
	1055	東京(タ) 1:44 (2:45)	福岡(タ) (21:39) 21:56	12/30発
	5053	東京(タ) 16:39 (17:37)	福岡(タ) (12:47) 12:59	
九州↓関東	1050	福岡(タ) 0:19 (1:20)	東京(タ) (19:27) 19:38	12/30発 12/31発も運転
	1054	鳥栖(タ) 22:55 (23:51)	東京(タ) (21:04) 21:47	
九州↓東海	7090	福岡(タ) 13:56 (14:57)	西浜松 (12:58) 13:40	
関西↓東北	5088 ~3089	梅田 19:08 (19:27)	仙台(タ) (9:40) 10:40	
東北↓関西	4078 ~1081	仙台(タ) 16:00 (16:38)	梅田 (6:42) 7:15	
関西↓新潟	4059	大阪(タ) 22:03 (22:42)	新潟(タ) (7:01) 7:30	
新潟↓関西	4070	新潟(タ) 17:15 (18:05)	百済 (7:15) 7:36	
新潟↓岡山	3096 ~2077	新潟(タ) 20:00 (21:24)	東水島 (16:15) 16:18	
岡山↓新潟	2076 ~3097	東水島 18:10 (22:02)	新潟(タ) (16:56) 17:00	
北海道↓東北	92	札幌(タ) 19:50 (20:54)	八戸貨物 (8:40) 8:55	12/29発は八戸貨物行き
新潟↓北海道	4091 ~3091	新潟(タ) 18:10 (18:41)	札幌(タ) (13:29) 13:50	
九州↓広島	2080	福岡(タ) 18:56 (20:16)	新南陽 (1:04) 8:00	

協会ニュース

平成23年11・12月分実施項目及び予定

本　部

11月　7日(月)／12月号編集進捗状況
　　1月号企画案作成(協会会議室)
11月16日(水)／利用促進委員会(協会会議室)
11月18日(金)／輸送品質向上委員会(協会会議室)
11月21日(月)／公益法人第1回理事会(如水会館)
11月29日(火)／創立総会(如水会館)

支　部

●北海道支部
11月12日(土)／エコレールマークPR
　　(コープさっぽろソシア店)
11月15日(火)／臨時幹事会(札幌すみれホテル)

●青森支部
11月25日(金)／利用促進会議(アラスカ会館)

●盛岡支部
11月　9日(水)／臨時幹事会
　　(ホテルメトロポリタン盛岡本館)

●秋田支部
11月　2日(水)／臨時幹事会
11月末～12月／利用促進会議(未定)

●水戸支部
11月11日(金)／臨時総会(三の丸ホテル)

●北陸支部
11月22日(火)／高岡地区部会総会及び利用促進会議
12月　7日(水)／富山地区部会総会及び利用促進会議

●近畿支部
11月11日(金)／和歌山分会利用促進委員会
11月15日(火)／臨時幹事会
11月16日(水)～17日(木)／
　　安治川口分会利用促進会議

●広島支部
12月　5日(月)／利用促進会議　周南地区
12月15日(木)／利用促進会議　宇部地区
12月22日(木)／利用促進会議　大竹地区
12月～1月　　／利用促進会議　広島・下関

●岡山支部
11月　1日(火)／臨時幹事会
11月18日(金)／臨時常任幹事会(三好野本店)
11月22日(火)／利用促進会議　倉敷地区
　　(倉敷国際ホテル)
11月28日(月)／利用促進会議　備後地区
　　(岡山ニューキャスルホテル)

●四国支部
11月22日(火)／臨時幹事会
　　(ホテルニューフロンティア)
12月　7日(水)／工場見学(日本食研)

【訂正】前11月号に誤りがありましたので訂正いたします。
●P21協会ニュース支部関係
広島支部 11月18日(金)／利用促進会議とあるは臨時幹事会が正当です。訂正してお詫び申しあげます。

平成23年度 本部委員会委員長副委員長会議を開催

11月11日、当協会本部において、平成23年度本部委員会委員長副委員長会議が開催されました。
当日は、利用促進委員会（中島委員長、長谷川副委員長）、輸送品質向上委員会（犬飼委員長、大地副委員長）が出席されたなか、10月31日までの活動状況と今後の審議の方向性についての報告等がされました。

【議題】
（1）平成23年度本部委員会の活動状況について
（2）平成24年度本部委員会の基本方針について

公益社団法人 鉄道貨物協会

本部委員会の審議内容

第5回 利用促進委員会(H23.11.16)

平成23年度第5回利用促進委員会を開催し、年間テーマ『情報システムの高度化による社会インフラとして災害に強い輸送体制に関する調査研究と提案』並びに『12フィートコンテナの増トンの可能性と課題の検討』についての審議を行いました。

A. 年間テーマ

『情報システムの高度化による社会インフラとして災害に強い輸送体制に関する調査研究と提案』

審議内容

鉄道貨物情報システムの提供者および利用者に対するヒアリング調査結果（中間報告）

今回の委員会では、鉄道貨物情報システムの提供者および利用者における諸システムに対する評価や要望等に関するヒアリング調査の中間報告を行いました。報告概要（抜粋）は、下記のとおりです。

1. 調査の概要

（1）調査の目的 （2）調査の方法 （3）調査の対象（①利用運送事業者：13社 ②荷主企業：9社）

2. 調査項目及び意見件数（11月11日現在）

【利用運送事業者】

（1）自社が荷主企業に公表している鉄道貨物情報システムの名称および運用開始時期（9件）、（2）当該鉄道貨物情報システムにより社外に公表している情報（7件）、（3）当該鉄道貨物情報システムにおけるこれまでの改良点（8件）、（4）JR貨物が提供している鉄道貨物情報システムに対する評価および荷主企業からの評価（20件）、（5）JR貨物が提供している鉄道貨物情報システムに対する要望および荷主企業からの要望（16件）、（6）自社が提供している鉄道貨物情報システムに対する荷主企業からのニーズ（3件）、（7）当該ニーズに対する対応（3件）、（8）情報システムがダウンした場合のバックアップ体制について（5件）、（9）今後の鉄道貨物情報システムの高度化の予定（12件）

【荷主企業】

（1）利用頻度の高い鉄道貨物情報（7件）、（2）JR貨物が提供している鉄道貨物情報システムに対する評価（4件）、（3）JR貨物が提供している鉄道貨物情報システムに対する要望（4件）、（4）利用運送事業者が提供している鉄道貨物情報システムに対する評価（7件）、（5）利用運送事業者が提供している鉄道貨物情報システムに対する要望（6件）、（6）必要な（あるいは入手できると望ましい）鉄道貨物情報（7件）、（7）鉄道貨物情報以外で利用できると便利な情報システム（4件）、（8）鉄道貨物情報以外に利用している物流情報（5件）

次回委員会では、ヒアリング結果に基づき課題や要望点等を項目別に仕分けて審議を図る予定です。

B. サブテーマ

『12フィートコンテナの増トンの可能性と課題の検討』

審議内容

12フィートコンテナの総重量緩和に関するヒアリング調査結果（中間報告）

今回の委員会では、鉄道貨物輸送の利用者（利用運送事業者、荷主企業、コンテナ供給業者）における12フィー

トコンテナを利用した現状の輸送実態、12フィートコンテナの総重量緩和に対するニーズや課題等に関するヒアリング調査の中間報告を行いました。報告概要（抜粋）は、下記のとおりです。

1. 調査の概要

（1）調査の目的（2）調査の方法（3）調査の対象（①利用運送事業者：5社　②荷主企業：4社　③コンテナ供給会社：2社）

2. 調査項目及び意見件数（11月11日現在）

【利用運送事業者】

（1）12フィートコンテナの積載トン数の増加に関する荷主ニーズの有無（5件）、（2）12フィートコンテナの積載トン数の増加（増トン）に関する荷主ニーズへの対応（1件）、（3）12フィートコンテナの積載トン数を緩和する場合における課題（5件）

【荷主企業】

（1）12フィートコンテナの積載トン数の増加（増トン）に関するニーズの有無（5件）、（2）12フィートコンテナの積載トン数の増加のメリット（5件）、（3）単位当たりの賃率が変わらない場合における、積載トン数の増加の希望の有無（3件）、（4）12フィートコンテナの積載トン数を緩和する場合における課題（1件）

【コンテナ供給会社】

（1）12フィートコンテナの貨物積載能力（2件）、（2）12フィートコンテナの積載トン数の増加（増トン）に関する利用者ニーズの有無（2件）、（3）コンテナの軽量化や強度の向上等による、今後の積載質量の増加の検討の有無（4件）、（4）12フィートコンテナの積載トン数を緩和する場合における課題（5件）

今後、ヒアリングを継続実施し多角的な意見を集約するとともに、当テーマに関する法律等社会的規制の整理等を行う予定です。

《第6回 輸送品質向上委員会(H23.11.18)》

平成23年度第6回「輸送品質向上委員会」は、今年度の年間テーマであります『コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案』について、最終の調査報告があり、審議が行われました。

審議内容

【調査報告】

1.「コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案」の調査報告について

審議では先ず始めに、ジェイアール貨物リサーチセンターの藤田主任研究員より、「コンテナの機能向上に関する調査」に基づき実施したアンケートとそれに伴うヒアリング調査を基に報告されました。

A. 調査報告要旨

（1）調査目的

平成23年度は、前年度に引き続きコンテナの臭気対策の実効性ある運用・管理方策について追及し、加えてコンテナの内部構造の課題と対策にも一歩踏み込んだ研究をすべく、「コンテナの臭気対策と機能向上に関する調査研究と提案」をテーマとして設定することとした。

（2）調査項目

文献及びアンケート・ヒアリング調査等により、以下の項目について調査を行った。

①コンテナの臭気問題・内部構造に関する課題のための先行研究分析

②内部構造に対する満足度及び事故発生例の把握

a. アンケート調査

12フィートコンテナの内部構造に対する現状での満足度と、過去に発生した輸送品質上の事故について、アンケートを通じて把握した。

b. ヒアリング調査

アンケート調査において代表的な意見或いは示唆に富む意見の回答のあった事業所に、コンテナの満足度と改善を望む点についてヒアリングを行った。併せて、臭気コンテナをはじめ、現在、どのような形で運用しているか、ヒアリング調査を行った。

また、構造面からの対策を講じるための参考とするため、コンテナ検修事業所及びコンテナ製造メーカーを訪問し、意見を伺った。

（3）コンテナの機能向上に関する提案

文献調査及びアンケート・ヒアリング調査結果を踏まえ、①平成22年度で課題のまま残されていた、実効性ある臭気対策案の提示、②それを受けた臭気・濡損・温度変化に伴う問題に対応するための内部構造提案、③問題のあるコンテナの運用方法の提案を行った。

ジェイアール貨物リサーチセンターの藤田主任研究員より、以上のような調査報告がありました。

その後の質疑応答は以下の通りです。

【質疑応答】

○段ボールの擦れについて

委員：段ボールの擦れが商品に及ぼす影響が、よくわからない。

藤田：段ボールの擦れが商品自体に及ぼす影響としては、段ボールの擦れの滓が考えられる。

事務局：段ボールのままで、小売店において商品として扱われている現状がある。

○フォークリフトでの計量について

委員：フォークリフトの構造上、計量する位置で重量が変わるということは考えられない。

藤田：中部地方の利用運送事業者からそのような指摘があった。

○臭気判定士について

委員：公的な臭気判定士の資格取得に要する経費は把握しているのか。

藤田：把握していない。

委員：講習料、試験料等合わせると、そう簡単に捻出できる金額ではない。

以上のような質疑が交わされ、議案審議は終わりました。

その他

1.「日通総研短観」について

企業物流短期動向調査である「日通総研短観（2011年9月調査）」について、日通総研経済研究部佐藤担当部長から、ご説明願いました。

2. 公益社団法人鉄道貨物協会「創立総会」のご案内について

出席委員に対し、11月29日（火）に如水会館で予定されている「創立総会」のご案内を行った。

まとめ

第6回「輸送品質向上委員会」は年内最後の委員会となったことから、事務局として各委員の会社の委員会活動へのご理解、ご協力に感謝申し上げ終えたところです。

以上

JR貨物 関西支社 広島支店

第18回 JR貨物フェスティバル 広島車両所公開でエコレールマークをPR

10月23日(日)広島市東区JR貨物関西支社広島支店広島車両所において「第18回JR貨物フェスティバル広島車両所公開」が開催されました。

当日は晴天にも恵まれ、家族連れや鉄道ファンの方々約11,000人にご来場いただきました。

広島支部からは、エコレールマークちゃんが登場し、エコレールマークのPR活動を行いました。グッズやパンフレットを配布し、子供から大人まで多くの方々が声をかけてくださり、地球環境にやさしい鉄道貨物輸送を大いにPRすることができました。

その他、機関車吊り上げ実演、新型機関車運転台公開、ミニイベント車への乗車、各種機関車・ヘッドマークの撮影会、列車カレンダーなどのグッズ販売等、多くの方々に喜んでいただきました。

鉄道コンテナ輸送の重要さをアピール！

エコレールマークちゃんとスタッフで記念撮影

大人気のエコレールマークちゃん

隅田川駅貨物フェスティバルに東京支部参加

東京支部：日時／平成23年11月5日［土］・場所／隅田川駅構内

11月5日（土）好天に恵まれ隅田川駅貨物フェスティバルが開催されました。
主催JR貨物関東支社、後援荒川区、協力南千住警察署・荒川消防署／（株）あらかわTMO／東京女子医科大学医療センターで組織。
当日は機関車・コンテナ・貨車の展示撮影、震災被災都市物品販売、産地直送野菜販売、鉄道部品販売が行われ、一万三千人もの人が訪れ大にぎわいでした。
JR貨物PRブースでは東京支部も共催で被災地応援のブース展示、会員増加運動とエコレールマーク普及活動の一環で協会案内やグッズを説明配布など、ご来場いただいた地域の方々にPRを致しました。

協会の案内やグッズを説明配布

たくさんの入場者で賑わった隅田川駅

第10回｜鉄道コンテナ基礎知識講習会を開催

名古屋支部：日時／平成23年10月27日［木］・場所／名古屋貨物ターミナル駅会議室

鉄道貨物協会名古屋支部では10月27日（木）に今回で10回目となる鉄道コンテナ基礎知識講習会を、名古屋貨物ターミナル駅会議室において開催しました。
会員各社から37名の方が受講し、JR貨物北原営業担当次長の挨拶、中部運輸局交通環境部物流課国谷課長様の基調講習を受け、またコンテナの現物（JR12ftコンテナ、日本石油輸送所有12ftURコンテナ）及びコンテナ貨車の実物を見ながら安全機能などの講習を受け1日を終了しました。次年度以降も、内容を充実して開催していきます。
講習内容は、次のとおりです。

1. 物流を巡る情勢の変化とモーダルシフトの実例
   講師　中部運輸局交通環境部物流課長
   国谷　岳 氏
2. 列車運行の仕組み及び指令業務
   講師　JR貨物東海支社輸送指令係長
   野々村　廣隆 氏
3. 会社概要及び鉄道コンテナ運賃計算、運送約款について
   講師　JR貨物東海支社担当課長（営業）
   寺村　裕 氏
4. コンテナの特徴と機能
   講師　JR貨物東海支社担当課長（検修）
   山田　俊之 氏

会員各社から多数の方が参加された会場

コンテナの実物を間近に見て実感

12フィートコンテナの実物で安全機能などを講習

お国自慢

盛岡三大麺

冷　麺　クセになる個性派麺

盛岡冷麺のルーツは、朝鮮半島の北西・平壌です。故郷が平壌の料理人が、ふるさとに思いを馳せて、盛岡で冷麺を作ってみたのが始まりなそうな。製法など独特なものがあり、平壌冷麺とはまったく違うものと言われています。

盛岡冷麺の最大の特徴は、シコシコとしたその麺の強い弾力と、その歯ごたえです。ピリ辛スープは、酢を少々加えることで、辛さに甘みと酸味が広がり、深い味わいとなります。キムチのシャキシャキさと弾力のある麺の食感のコントラストは、言い知れずクセなる味間違いなしです。

みそがうまさのミソ　じゃじゃ麺

盛岡じゃじゃ麺発祥は、中国大陸の炸醤麺（ジャージアンミエン）で、熱いうどんに肉味噌がのったものです。数十年前に盛岡で生まれました。食する直前、ラー油、おろしニンニクなど調味料を加え、お好みの味で召し上がれます。また、麺を食べた後、自分で皿に備え付けの生卵を割り入れ、ゆで汁と肉味噌を加えてもらい卵スープ［鶏卵湯（チータンタン）］に仕立て（これが美味です）食事が完結します。

寒い冬が最適のように思われますが、酷暑日、汗が皿に垂れ落ちるのも忘れ食するのもまた格別です。

わんこそば　大勢で食べる楽しさ

わんこそばの「わんこ」は、お椀を意味します。わんこそば専用のお椀に盛られた（一口で食べれます）蕎麦を食べ終わるや否や、給仕の威勢の良い掛け声と共に、蕎麦がお椀に放り込まれ、客が降参（お椀にふたをするまで、しかしふたをするタイミングが難しい）するまで延々と続くというユニークなもので、正直、味を堪能する余裕はありません。速さと高く積まれたお椀の数を楽しむというスポーツチックな蕎麦です。

公式記録かどうか、時間無制限で559杯とか、普通男性で100杯近く、女性で70杯前後。チャレンジしませんか。

盛岡にいらしたときは、是非お試しください。お店もたくさんあり、美味しい所をご案内いたします。　担当：盛岡支部（大平）

写真提供：（財）盛岡観光コンベンション協会

キニナル…? 気ニナル? 木ニ成ル!

松原産業株式会社

http://www.matsubarasangyo.co.jp
〔本社〕〒069-1511　北海道夕張郡栗山町中央1丁目1番地1号　TEL(0123)72-1221　FAX(0123)72-5802

自然を愛し　安心・安全を常に求め　正直な経営を心掛けよう

当社の歴史は明治40年(1907年)初代会長、松原外次郎が18才で富山県砺波市から来道し、大正13年(1924年)に北海道炭鉱汽船株式会社の栗山町(当時は角田村)二岐山林小作総代となり山林経営に携わったときに始まりました。終戦後、昭和23年(1948年)初代社長　松原武吉(外次郎の長男)のもとに松原産業株式会社となり、"木"に拘わり社業を発展させてきました。全道に約4,000haの社有林を有し、昭和39年(1964年)に東京オリンピック、バレーボール会場となった代々木第2体育館に当社の床板を納品し、その高品質が評価されて平成7年(1995年)の改修で再度、当社の床板が採用されました。これからも北海道の自然と木の良さを全国に伝えていくことが当社の使命と考え、より豊かな暮らしへの可能性を見つけ創造していくことで、地球と人に優しい、そして社会に貢献する企業として、明日への歩みを力強く進めていく所存です。

MATSUBARA　SANGYO　CO.,LTD.

松原産業株式会社 栗山工場(フローリング)

松原産業株式会社 継立工場(合板)

合板の材質は、割れ、収縮、膨張などもなく樹木独特の木目模様をダイナミックに描き出し、白く滑らかな質感があり、干割れや切断時の欠けや割れもなく塗装も容易です。用途は家具、木工、インテリアの内装材としてホルムアルデヒド等、日本合板検査会のJAS品として認定されていますので、幅広く利用できます。今や住まいの気密化がますます進んでいますが、エコロジーな合板ですから健康にも大丈夫です。当社の合板は、ホルムアルデヒド放散量を抑えたF☆☆☆☆の商品です。

〔工場〕栗山工場・継立工場　〔支店〕東京支店　〔営業所〕札幌営業所・仙台営業所・大阪営業所

キニナル…? 気ニナル? 木ニ成ル!

きになるあなたも検索してみて

松原産業　検索

平成23年12月1日発行（毎月1回1日発行）昭和26年3月12日 第三種郵便物認可 MONTHLYかもつ 12月号 第1巻 第2号 頒価420円（本体価格400円 送料別 会員の購読料は年会費に含まれます）

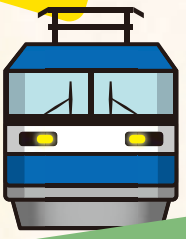
エコレールマークは、エコ輸送で地球環境に貢献する企業や商品を認定するマークです。

「物流の見える化」推進で
エコ社会の実現！

企業

エコに対する取り組みとして
鉄道輸送に転換し、エコレールマークを取得する。

モーダルシフト



鉄道輸送

環境負荷の少ない鉄道輸送で
「エコ物流」を実現

輸送

エコレールマーク

購入

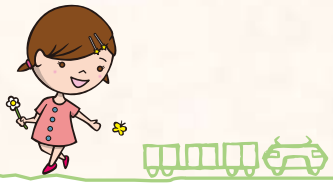
消費者

エコレールマーク商品を選ぶことで
CO_2排出量の削減に貢献。

販売

店舗

エコレールマーク商品を置くことで
エコ推進に協賛。



エコレールマークの認定基準

取組企業認定

500km以上の陸上貨物輸送の内、鉄道利用で、数量または数量×距離の15%以上。

500km 15%

もしくは、年間鉄道利用数量1万5千トン以上または数量×距離1,500万トンキロ以上。

商品認定

500km以上の陸上貨物輸送の内、鉄道利用で、数量または数量×距離の30%以上。

500km 30%

▶▶▶ 詳細は協会ホームページをご覧ください。 http://www.rfa.or.jp/

エコレールマークの使用例

企業イメージ用

環境報告書／ウェブサイト／ポスター／新聞広告／カタログ（企業の取組の説明に係る箇所）等

個別商品用

商品／段ボール／カタログ（商品の告知、説明に係る箇所）／新聞広告 等

国土交通省 鉄道局貨物鉄道政策室
TEL 03-5253-8111 内線 40254 http://www.mlit.go.jp/tetudo/

公益社団法人 鉄道貨物協会 エコレールマーク事務局
TEL 03-5256-0580 http://www.rfa.or.jp/